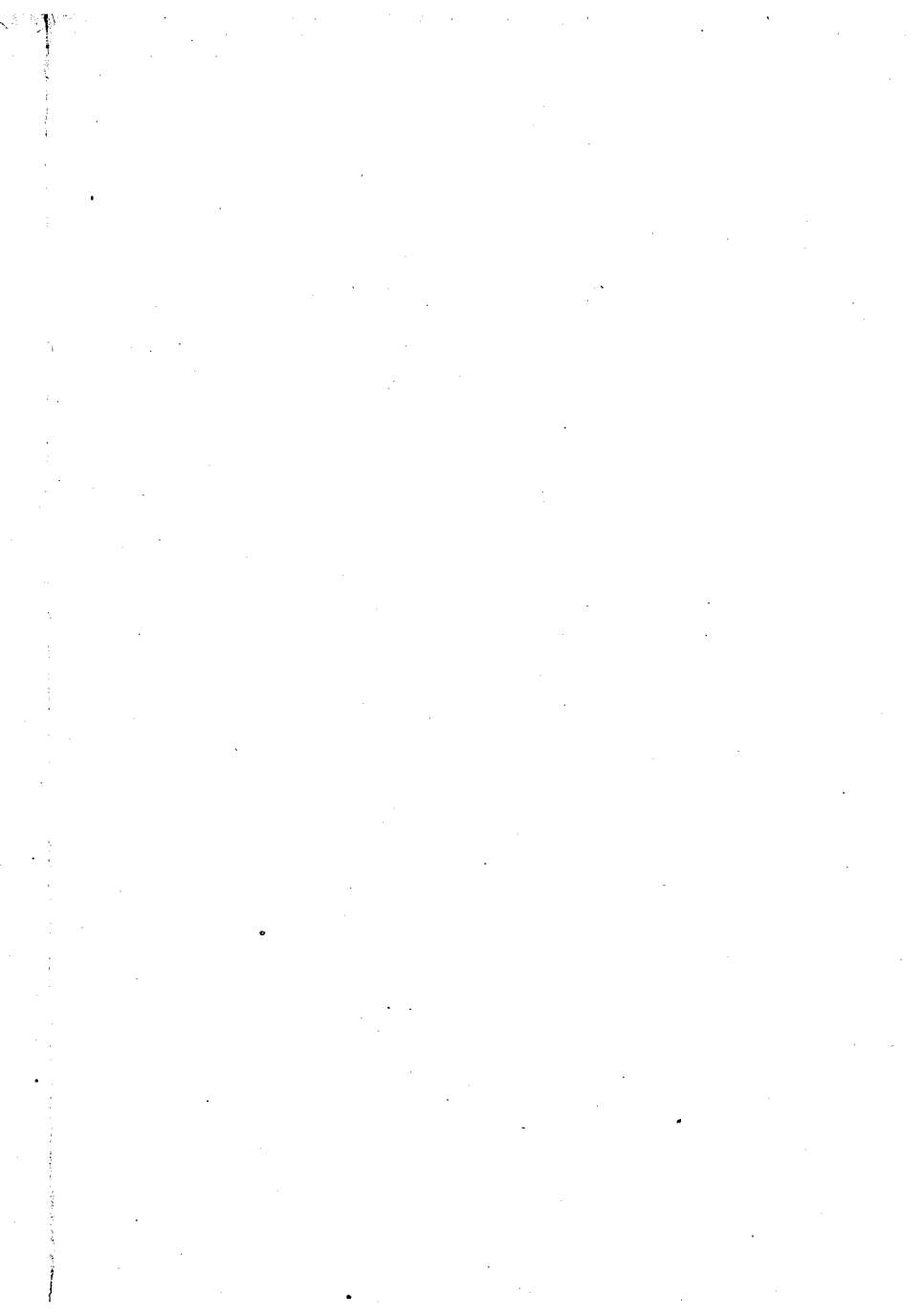


昭和三十六年十一月

九條家旧藏記録類展示目錄

宮内庁書陵部



九條家旧蔵

小 右

記 虫損甚

藤原実資

鎌倉初期写

十一卷

寛和三年春夏 永祚元年春夏 同年秋冬 同二年秋冬 正暦四年春夏
寛弘五年秋冬 同九年夏 長和五年春 治安元年冬 長元二年八・九月
長元五年十一・十二月

寛弘九年卷末に「首付了、文治五年閏四一〇〇〇」□□(朱書)とあり、各卷末に寛永十八年六月九條道房一見奥書あり

小 右

記 前掲新写本

江戸期写

十一冊

小 記 目 録

虫損甚

鎌倉初期写

十四卷

- 一、年中行事(一)正月上(四方拜)国忌)
- 三、二月(祈年祭)一分召)
- 五、年中行事(六)七)九月(乞巧奠)例幣)
- 七、佛事上(仁王会)寺名号)
- 九、(造宮)家地庄園)
- 十一、(日蝕)所々焼亡)
- 十三、(公卿勅旨使)山陵使)
- 二、同 (二)正月下(叙位職)政始)
- 四、四)六月(平座)御贖)
- 六、同 (七)十)十二月(射場始)追儺)
- 八、(諸寺供養)説法)
- 十、(官奏)引出物)
- 十二、臨時(六)僧綱召)禽獸)
- 十四、(御元服)

小記目録 前掲新写本

江戸期写 十四冊

左 経 記

虫損甚

源 経頼 鎌倉初期写 四卷

長和五年春夏 治安二年秋冬 万壽二年春夏 同三年秋冬
第一卷々末「朱了 純謬多歟(朱書)」、「為取目錄聊直首書了(人名不詳、花押)、重見合
目六了」、第二卷々末「首書了(同前花押)」、第三卷々末「一校了猶有謬失歟、首書了
(同前花押)」、第四卷々末「首書了」とあり。各卷とも寛永十八年六月道房の一見奥書
あり。

左 経 記

前掲新写本

江戸期写 四冊

春 記

虫損甚

藤原資房 鎌倉初期写 五卷

長曆四年正月 同四年四・五月 同年十月 同年十一月 同年十二月
裏文書(建曆二年、建保元・三年、承久二年具注曆断簡)あり。
第一卷々末「奥年号一見之次書之、端自然虫損之時、後覽之人不辨年号者、
可難用所見歟、仍加之者也 文明十四年二月 日従一位 (九條政基花押)」
「元和四年九月十一日杉原治部入元也うら打」
第二卷以降卷末、寛永十八年六月道房一見奥書あり。

帥

記 虫損甚

源 経信 鎌倉初期写

七卷

治暦四年冬 承暦四年夏 同年秋 同五年春 永保元年夏 同年冬
寛治二年秋冬(七月欠)

裏文書(壽永元年具注曆断簡等)あり。各卷末、寛永十八年道房一見奥書あり。

土

右

記 延久元年四月十三日(首欠)六月廿七日

源 師房 鎌倉初期写

一卷

卷末に「延久元年右大臣俊家公記、寛永十八年六月一見了、右大臣(道房花押)」

中

右

記 虫損甚

藤原宗忠 鎌倉初期写 十七冊

嘉保元年四季 天仁元年四季 同二年四季 永久二年四季 元永元年春夏(六月欠)

大治四年冬 同五年春夏 同年秋冬 同三年四季 大治二年四季 同四年春 同年夏秋

長承四年春四月 同五年春夏 同年秋冬 長承元年春夏 同年九月・冬 同二年夏秋

裏文書(嘉祿二年、安貞元年具注曆断簡、他に文書類)あり。

長

秋

記

天永四年正月一日(十月五日(有欠)) 元永二年四月十四日(六月廿八日(有欠)) 源 師時 鎌倉期写 一冊

長秋

記

天永四年正月八日十六日(有欠)
元永二年四月一日十二月廿九日(有欠)

江戸期写

一冊

賭弓部類記

長秋記部類

建曆元年写

四卷

目錄(永長元年~元永二年、保安元年~長承四年)

永長元年正月十八日~康和五年正月十八日

康和六年正月廿三日~天仁三年三月十九日

保安元年三月卅日~長承四年正月廿四日

裏文書(承元元年、同二年文書案等)、第四卷々末「建曆元年四月十三日以花山院殿御
本書写了、即各取替校合了」

大嘗会御記

保安四年十一月

藤原忠通

伝藤原忠通筆(卷一)
南北朝期写(卷二、三)

三卷

第一卷々末「保安四年御記法性寺殿則被進禁裏御記被写留之由、慈眼院殿被加袖書、尤可秘

藏者乎、寛永十八年七月十七日道房銘之

此旨見舊目

文保二年被進禁裏錄大嘗會文之由見目錄、花園院給徽感勅書于今傳之畢

書目錄也

第三卷々末「法性寺殿御次第辰巳也、保安四年十一月御自抄云々、秘藏不可出窓外者也

左大臣道房傳之

右 大 記 承德元年十月二日(首欠) 卅日 承徳三年正月 三月 平 時範 鎌倉期写 二卷

公 教 公 記 宸筆法花御八講記(久安四年六月四、十五、十六日) 三條内府記(久安六年八月五 七日) 藤原公教 鎌倉期写 二卷

興福寺供養記 建久五年四月廿四日(首欠)、同五月十八日 藤原実房 鎌倉期写 一卷

大将基忠辞表記 弘長二年七月十三(首欠)、十六日 鎌倉期写 一卷

旬 記 元亨三年十月一日 三條実任 南北朝期写 一卷

除 目 記 貞治三年三月廿七日 同四月一日 九條忠基 自筆 一卷

卷末に「貞治三年三月廿七日、廿八日、廿九日、四月一日、除目記後已心院殿御記也 御自筆也、寛永十八年六月一見了 右大臣(道房花押)」

官 奏 記

万壽三年四月一(首欠)、二日 長元二年四月一、二日
小右記

鎌倉期写

一卷

大饗 部類記

寛治二年十二月十七日 同三年正月廿二日
爲房卿記他

鎌倉期写

一卷

八幡并賀茂行幸記

中右記別記

保安二年三月三日、同四月七日 同三年八月廿四日、同九月廿八日

鎌倉期写

一卷

春日行幸類記

中右記(大治三年三月十五日、同六月廿二日)(首欠)
宰記(大治三年四月二日、廿八日)

鎌倉期写

一卷

卷末に「右春日行幸記者 大治三年 崇徳院 中右記 宗忠公記、于時權 宰記 爲隆卿記、于時參議 等類記也 寛永十八年六月右大臣(道房花押)銘之」とあり。

一音院殿御記

九條忠家自筆

二卷

八幡行幸記(弘長二年三月廿六日) 賀茂行幸記(弘長二年四月廿日)
付、三位中將行幸供奉雜事(鎌倉期写一卷)

供奉雜事卷末「弘長二年三月廿六日八幡行幸報恩院殿 于時三 位中將 供奉雜事也、 同年四月 廿日行幸賀茂社又令供奉給、 供奉人裝束大略同之、 少々相違之事小有之、

隨身無風流之由見一音院殿御記畢 寛永廿年七月一日記之 左大臣(道房花押)とあり。

日吉行幸記

寛治五年三月二日(九日)

藤原季仲

南北朝期写

一卷

裏文書(元徳元年具注曆断簡)

室町亭行幸記

永徳元年三月十一日(首次)

九條教嗣

自筆

一卷

卷末に寛永廿年七月道房一見奥書あり、裏文書(かな消息)あり。

渡宋記

僧戒覚

寛喜元年実尊写

一卷

永保二年九・十・十二月 元豊六年(永保三年)二(六月)

卷末「寛喜元年乙丑十月十六日播州傍西郡於實報寺、以戒覚聖人御自書写了、執筆實尊」
「予下向播州之時、於書写山對面實報寺主佛如房之時令書写之、彼院主以弟子使写之了、院主談云、若石者故平刑部卿忠盛拜見之時被取了、仍不知其趣方耳、金剛窟者被埋引攝寺佛壇下之由云々、清凉山茸者同寺之由覚悟矣、但彼寺今者爲廢寺故不能左右也、仍此書安置當寺、々々当初戒覚上人所住寺也、上人賦喧竊下附地名引攝寺、去此五町餘也云々、此佛如房者寂光寺實報寺引攝寺三ヶ寺院主也、砂門慶政爲恐廢亡記之」

叡山巡礼記草

弘安四年閏七月廿八、廿九日

八

原本

一卷

